

平成 2 7 年第 6 回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成 2 7 年 1 2 月 1 5 日 (開会)

平成 2 7 年 1 2 月 1 7 日 (閉会)

○議長（小林信） 次に、6番 大城戸ツヤ子君の発言を許します。6番、大城戸ツヤ子君。

（6番 大城戸ツヤ子議員 一般質問席登壇）

○6番（大城戸ツヤ子） 私は職員の仕事異動について、2点質問させていただきます。

9月の定例議会では、仕事異動の基本的な基準、職員数の定数、昇任基準について質問したところ、当時のお答えでは、いろいろ微妙な部分があつて総合的に判断した。村にとって大切なものはなんであるかと考え、7月の段階では総合計画を作る、未来づくり協働プログラム、地方創生事業など、総務課で大切な事業を抱えているので、総合的に対応できるような体制をとつたという回答でした。それから3カ月余り、11月1日付けで2回目の仕事異動が実施されました。

行政報告によると、年度末に定年退職する職員がいるためということですが、それにしても早い決断です。来年3月末には異動があると思います。職員はいつ異動があるのかと落ち着いて仕事が出来ません。

特に、7月の仕事では、教育委員会事務局長は3カ月間あまりを命じ、それから3カ月後には総務課長への異動です。総務課には重要な課題が山積しております。また、対外的な対応もあります。人材不足の中で駒のようにコロコロ回すのは如何なものか。大げさでしょうが、国が、例えばこの人にクレームが付いたところで大臣を変えていると同じように見えます。今回の人材の育成や適正な配置についてお伺いします。

次に臨時職員への不備から生じた保育園の待機児童についてです。先ほど1番さんの質問もありましたが、重なる点があると思います。平成27年度のかみこあに保育園の児童数は定員が60名ですが、現在、何名通園していますか。少子化が進行する中で、園児の減少は確実に減ってきています。上小阿仁村では、今年は、未だ1名しか生まれていません。来年にはもう1人、2月に生れると聞いて少し安心しております。

11月の仕事異動では臨時職員もありました。その職員は一身上の都合で退職したそうですが、その対応はどうだったのでしょうか。私は平成22年度から乳幼児検診で離乳食を担当しています。11月の乳幼児検診での会話で、12月から働くのだけれど、保育園職員が見つからないので入園出来るかどうか不安との声でした。子育て中の若いお母さん達に不安を与えてはいけないと思います。現在、待機児童はいますか。お答えをお願いします。

○議長（小林信） 村長、答弁を許します。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 質問の件につきましては、職員の仕事異動、その1点目

であります。職員の人材の育成や適正な配置というふうなことだと思います。

人材の育成につきましては、村としましては、主に秋田県町村会が実施をしております各階層の職員研修を積極的に受講させております。

原則として人事異動につきましては、現状に応じて対応をいたしますけれども、実際は事務の執行上、できれば四半期ごとの区切りで行うのが通例というふうに考えております。

今回、3月に退職する職員が多く出ることから、住民サービスの低下を招かないように早期に対応をさせていただいたというふうなことになります。合わせて、副村長人事も、執行部として体制固めが出来ましたので、それも含めて対応させていただいたというふうなことになります。

2点目の臨時職員の対応というふうなことでありますけれども、先ほど伊藤議員にもご説明したとおりでありますけれども、保育園の待機児童解消のために、11月の人事異動で臨時職員の方に保育園への異動をお願いした経緯がございます。その方が一身上の都合で退職されているというふうなことになります。そのため、急遽、保育士等の臨時職員を募集しておりますけれども、今現在、応募がなく苦慮しているところであります。

それから、現在、ゼロ歳児が1名と1歳児が待機児童というふうなことであります。今後も引き続き臨時保育士等の募集を行いまして、保育士等が確保でき次第待機している児童を入所させたいというふうに考えておりますので、よろしくご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 育成ということで、職員の研修として県の新規採用研修などがあるのですが、それでは、とても人材育成にはなりません。それ以外に、上小阿仁村独自の役場職員の研修はぜひ作ってください。役場職員としての人材育成が本当に大切なのです。職員が元気に働きやすい環境をまず作っていますか。この春採用された職員が退職されたそうですが、なぜ、辞めなければならなかったのか、原因調査をしていますか。その関連で人事異動ではなかったのではないのでしょうかと考えております。

どうしても適正な配置には思いませんが、如何でしょうか。また、保育園で働いている職員の皆さんは、一生懸命園児たちと向き合っています。しかし、建物があっても、中で働く職員がいないと上小阿仁の場合、待機児童になります。でも、他所の待機児童というのは建物がなくて入れないというのが中央の現状です。しかし、上小阿仁は建物があっても、中で働いてくれる人がいないので待機児童が出ているのです。それはチョットおかしく思いませんか。それは今回だけではないと思います。私は、8月に3日間、保育園の入園体験をいたしました。ゼロ歳児、1歳児、全部体験しています。しかし、今、規定どお

りゼロ歳児には3名が委託すれば、携わる人は、保育士が1名と言いますけれど、1名で3名の赤ちゃんを見られません。想像してみてください。本当に大変です。ですから、そういう正規なことを言っても無理です。やはり、そのところにあった事情をよく理解していかないといけないと思います。特に上小阿仁は認定子ども園を平成21年度から受けています。でも、それですとゆとりのある保育園だと思われましても、現在、ゼロ歳児と1歳児が一緒です。小さい6畳の部屋に、ハイハイする赤ちゃん、それから走り回っている乳児、そういう部屋、それから2歳児はチャンと大きな部屋です。3歳児と4歳児が一緒です。そういう教室で指導できますか。よく上小阿仁村教育サイトには立派なことをうたっていますけれども、先ほど村長は、子どもは宝だと思いますと、とても私は宝扱いをされているようには思えないのです。

小中学校には、生活支援サポーターみたいな方がそれぞれいますけれども、保育園には本当にいません。ですから、環境は凄く厳しいんです。働く人が厳しいんです。いくら募集しても、私は、まず今の働く環境が整備されないと、そういう人はまずいらっしやらないでしょう。2カ月も3カ月も募集しています、募集していますと、チョット恥ずかしくないですか。それはどこにあるかと、やっぱり職員の働く現場がよく理解されていないと思います。

先ほど、1番さんの質問にお答えありましたけれど、何かとてもぬるい回答でした。もう一度、もうチョット積極的な回答をお願いします。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 働く場所の環境整備、これにつきましては、言われるとおり基準、ゼロ歳児3名に対して1人というのは酷な話だというふうに思っております。ですから、それについてはいろいろ対応させていただくというふうなことになります。いずれ、その対応策として今とりあえず募集をさせていただいているというふうな状況であります。

先ほどお答えをさせていただいたとおり、その後については少し別の方法も検討させていただいて、保護者の方々にご迷惑のかからないように、そして、子どもさん方に喜んでもらえるような保育園作りをさせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

○議長（小林信） はい、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） まず、現場を知っていただきたいと思います。小林村長あるいは副村長は、前、住民課に席を置いていただいていると思いますけれども、それからずっとここに至るまで保育園を見学し、そして職員の皆さんとお話をしたことがあるでしょうか。いろんな差別、同じ仕事をしていても差別があります。ですから、近いです。100メートルありません。ぜひ行って

目で確かめて、こんなに頑張っている保育士さん達がいることを実感していただいて、そして、自分達が保障されなければ、たぶん子ども達にも影響が出ると思います。ですから、ぜひ口だけではなく、足を運んでください。お願いします。そんな時間はあると思います。

それで今、保育園は何人通園しておりますか。

○議長（小林信） 住民福祉課長。

○住民福祉課長（伊藤精治） 保育園には、現在、42名が入所して通園しております。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） わかりました。定員60名、それで現在42名、それでまだ待機者が2名という現状です。

この上小阿仁村で、待機児童があつてはならないのです。恥ずかしいのです。東京だったら待機児童がいて当たり前です。私もそういう辛い環境の中で子育てをしてきました。ですから、これからドンドン人口減少した中で、この村は子どもが本当に生き生きと、はつらつとして育てているということ、やっぱり、この上小阿仁村をPRするひとつになると思いますので、とにかく保育園に目を当ててください。それは福祉です。

また、職員ですけれども、本当に若い職員が多いと思います。ですけれど、若い職員が元気に輝いて村民のために働いていますか。私は、役場に時々行くのですが、皆疲れた顔して、私が通る時は皆横切っていきます。顔、目を合わせない。これは何だろうと思うのですけれども、私が、あんまり明るくすぎるのか、そういうことはわかりませんが、とにかく若い人が元気でなければ、村の繁栄はありません。

また、村長の右手となる人材を育てないと、上小阿仁村は本当に潰れてしまいます。ですから、すぐ残業とかあるいは日曜出勤とか、そういうことをおっしゃらずに、ぜひ若手育成に、人材育成をお願いいたします。

○議長（小林信） 大城戸議員に申し上げます。答弁求めますか。

（「結構です」の声あり）

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 未来づくり協働プログラムについて質問いたします。

が、その前に、私がお話をすることは、平成27年度4回上小阿仁村定例議会で、小林村長の施政方針での挨拶での一節です。

1、誠実、そして堅実な行政運営について、ということで、声なき声にも謙虚に耳を傾け公正、公平に対応します。きちんとした目標をもって行政を進めていきます。ミエ、ムダを排し持続可能な財政にしていきます。

また、生活しやすい村については、村民の各種負担の軽減を図ります。など

など、一部です。ぜひ、念頭において、私の質問を聞いていただきたいと思います。

人口減少と少子高齢化問題は、上小阿仁村のみならず全国的な問題です。その問題解決のために、国が全国の自治体に年度内の策定を求めているのが人口減対策の5カ年計画や総合戦略です。

上小阿仁村では、基本目標に、基盤となる横断的な取り組みとして「集住型宿泊交流拠点施設」の創設を掲げています。

これは未来づくり協働プログラムで県と市町村が資金を出し合う事業です。しかし、このプログラムは平成24年～平成28年までに策定する、そして幾つかプレゼンしたようですが、平成25年の12月定例議会で、長井直人さんが質問しています。当時は中田吉穂さんが村長で、現村長は総務課長として関わっていません。

ところで、8月25日の第2回議員全員協議会では、協働プログラム素案が提出されました。11月30日の第3回議員全員協議会では、協働プログラム「多様な交流の推進による地域力強化プロジェクト」の上小阿仁版が提案されました。しかし、その間、様々な会議や検討会を実施しています。私は、改めてこのプログラムについて、勉強させていただきました。

上小阿仁村は、自然災害も少なく自然豊かな村です。私達は四季を楽しみ、また、自然の恵みをいただき、お互いに支え合いながら都会にはない人間らしく生き生きと暮らせるように励まして合って生活しています。

人口減少が続く中であって、村には立派な箱物が建っています。村の活性化のために、これ以上箱物が必要ですか。近くには廃校の地域センターがあります。真意を伺いたい

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 大城戸議員の質問でございます。未来づくり協働プログラムについてというふうなことでございます。

経緯を少し説明しますと、人口減少と少子高齢化が同時進行をする町村におきましては、地域コミュニティの低下に留まらず、自助や集落内での共存が近く限界に達し、維持存続が危ぶまれる地区もあることから、将来にわたりまして安心して且つ活力ある地域社会を構築することが、喫緊の課題というふうに考えております。

多様な主体による高齢者の見回り、それから、支え合い体制を充実強化するとともに、地域資源を活用して村内外の交流を積極的に進めることによりまして、人口減少社会においても、住民が生き生きと暮らせる地域コミュニティの維持、強化を図らなければならないというふうに思っております。

集住型の宿泊交流施設につきましては、若い人向けの住宅の部分、そして、冬におきます高齢者が住み、春から秋に来村者等が宿泊所になる部屋、そして放課後児童クラブ等を想定した施設というふうに考えております。

村に住み続けたいが、雪下ろしや除雪が心配といった冬期間の生活を不安視する方々が、冬を除く季節に、これからもずっと地元集落に残ることを可能にし、住民が住みたい所に出来るだけ長く住み続けられる仕組みの新たな手法のひとつとして考えております。

加えて、若い人と高齢者の同居によりまして見守りや支え合いも実現し易くなると考えております。

また、村外者との交流を、学生、若手芸術家の滞在や農業体験希望者、移住希望者のお試し宿泊などに提供したり豊富な森林資源を活用した林業体験などを通じて促進し、まずは村に興味を持ってもらい、交流を続けることにより、村での就業と移住につなげたいと考えております。しかしながら、村には宿泊施設が限られておりまして、構想実現のためには、村への来訪者が宿泊できる施設が必要と考えておりますので、どうかご理解のほどをよろしくお願ひしたいと思っております。

なお、大城戸議員からご指摘のありました地域センター、旧小沢田小学校でありますけれども、これにつきましては耐震構造となっていないことから、居住施設への改修に多額の費用がかかるというふうなこともありまして、今回のような施設というふうなことで検討させていただいているというふうなことで、よろしくご理解をいただきたいと思ひます。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6 番（大城戸ツヤ子） このプログラムの事業概要を見れば、未来づくりに繋がるようなプロジェクトには全然見えないのです。

村長も、チョットお話ありましたが、私もザッと説明させて、特に、今日傍聴にいらしている方にもぜひ聞いていただきたいので、あえて詳しく説明いたしますけれども、目的としては、多様な世代の人々が集い交流する拠点づくりということで、冬の生活や除雪に不安を抱える高齢者の居住、学生、若手芸術家、農林体験者などの地域外人材の宿泊施設。单身、若者向けアパート、地域おこし協力隊、多目的交流スペース。木造2階建てで、高齢者2人用が5部屋、1人用が5部屋。若者用が10部屋。

それから、支え、見守りするという強化の点で、高齢者は集落・グループ単位で1階に住むという計画です。2階に住む若者は周辺の除排雪、買い物支援の実施、支えあいながら共同生活を行うことになっています。そして、村長の発言によると、このプログラムが生活支援モデルとなり、上小阿仁村がこの課題を克服すれば、秋田県が良くなり日本が良くなることで注目されるという、

もう本当に成果を得たコメントをしています。

しかし、今、高齢者生活福祉センターの居住部分は部屋が空いています。若者は村営住宅に住み、部屋は足りています。対象者に無理がありませんか。

私も高齢者の1人ですが、集落、グループ単位で冬期間、この建物に住みますでしょうか。どんなに古い家でも住み慣れた場所がいいはずです。実際、私も冬期間は慣れないため、水道を壊したり、トイレ線を壊したり、色々体験しました。ですから、事情を詳しく言いますと冬場こそ家を空けられないのです。よく一般の人は、夏は涼しいから上小阿仁にいて、寒くなったら東京へ行ったらと、そういう親切にかつてアドバイスしてくれた人がいました。しかし、実情だと冬こそ空けられないのです。それはよく皆さん分かっていたかと思いますが、思います。ですから、4カ月間の住まいのための準備は大変です。例えば、ショートステイ利用者と同じように洗面道具から衣類、食事用に使用する道具まで持参しなければなりません。そして入居するように勧めるのは誰でしょうか。私達高齢者は、人に迷惑をかけないように自分のことは自分でするよう頑張っ

て今も生活しています。

また、一般に若者とは30代だと私は自覚していますが、先日の説明では、若者の対象をと聞くと50代までとして、該当する村営住宅に単身居住者26名だそうです。入居打診するということですが、違和感を覚えませんか。入居条件も同様です。

また、若者と高齢者の生活リズムが違います。高齢者は大体、夜7時か8時頃には寝ると思います。私の母もそうでした。若者は一般に遅くまで起きています。それに、一軒家と違いアパートは2階の生活の音が気になります。下の階によく響きます。私も東京でそういう生活をしていました。また、車生活ですので、深夜の車の開閉が騒音となります。利用している人はあまり感じないと思いますが、私みたいに暗い所で生活していると、まあ、若い人たちの車の締めたり開けたり、それから朝早くから雪かきすることが、全部騒音になるのです。ですから、そういうものもチョッと心の奥に入れておいていただきたいと思います。また、買い物は誰が応じてくれるのでしょうか。

高齢者は、若者と高齢者とうまく付き合えますか。高齢者を支える体制の強化だったら、有償ボランティアを立ち上げ、さらに社協、民生協議会、郵便局の連携を強化すべきです。

また、里山を活用した交流人口の拡大ということで、首都圏の若者との交流を考えていました。でも、たまたま上小阿仁プロジェクトあって、武蔵野大学の、そういう方々の交流を指していると思うのですが、このアートも、来年度はやらないと村長がもう既に皆さんに公表しています。そういうアート関連の方がいらっしゃるのでしょ

業として平成 28 年からスタートの予定となっていますが、どれをとっても、この宿泊交流施設の箱物がなくてもできると思います。

それは、冬の高齢者の見守りは有償ボランティアを強化する。里山を活用した交流には、現在ある施設を利用する。それぞれの地域での生活を体験することで里山をより深く知り得るのです。

箱物に入れて、では、そこから遊びに行ってくださいと言っても、そこから真の交流は始まりません。箱物を用意して迎えるのではなくて、行政や住民が人を呼ぶ環境づくりをしていくことが大事だと思います。むしろ、子育て世代の人たちの未来づくりが大切だと思いませんか。如何ですか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 未来づくりの協働プログラムにつきまして、ひとつひとつ答弁するというのは、なかなか難しい訳ですけれども、このプログラムにつきましては、当初、お話をさせていただき、村の課題がなんであるかと、その村の課題を解決するために、県と協働で事業をするというふうなのが目的であります。先ほど、大城戸議員からも言われたとおり、日本の人口というのは、毎年毎年減っております。少子高齢化に向かっておる訳であります。その中で秋田県が日本一と、そして、上小阿仁村が秋田県一と、その人口減少率というふうなことになります。

そういう点で、上小阿仁村がいろんな形で日本の何十年か先をいっているのだというふうなことで、先進地であるということで、上小阿仁村がこれからどのような施策を講じて、例えば、今、年平均 70 人の減少をしている人口が、これを 50 人若しくは 30 人にすることができれば、日本の人口も、将来、そのような形で進むであろうというふうなことで対応策を先進的にやらないといけないでしょうというふうなことで、県といろいろ協議をさせていただいているというふうな状況にあります。

大きい原因としましては、人口減少というのは、皆さんご存知のとおり一極集中で、東京都の方に集まる、都市に集まる、ところが都市に集まった若者の出生率というのは少ない。地方の方が高いというふうなことがありますので、国では、今現在、移住定住というふうな形での対応をとることによって、少し減少率を下げたいというふうなことで対応をしていると。

上小阿仁村につきましても同様に、いろんな形で人口減少を減らしたいというふうなことであります。そういう点で、若者の増加、そして若者の出会いの場をいくらかでも作っていかないと、これから、その対応が遅れてしまうというふうな形で、出来れば 1 箇所若い人だけの交流の場としての拠点を作りたい。そして、上小阿仁村のいわゆる特徴である高齢化につながる対応を、こ

の部分で協働で支え合い、協調姿勢、お互いに助け合いながらもっていけないでしょうかと、そして、春から秋の部分については、いろんな形で若い人方を呼ぶ、それによって、若い人方同士の交流も生まれる、村の若い人方、年寄りの人方と交流する。合わせてお年寄りの方々の、いわゆる平均寿命、健康寿命を延ばしたい。やはり元気なお年寄りは、若い人方との交流によって気持ちも若返ります。1人家に閉じこもり、1人独居生活というのは大変な苦痛だというふうに私は考えております。

出来るだけ出会いを求め、そして交流をする。そういうふうな形での対応がとれないでしょうかというふうなことで、今回、まだ現段階では検討中でありますので、これが全て上手くいくかというふうなことにつきましては、これからいろんな形で検討させていただくということを進めさせていただくというふうなことになると思いますので、今後ともいろんな形でご意見、ご提言をいただければ有り難いと思います。

ありがとうございます。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） では、わかりました。

視点を変えましょう。今までは、この箱物が必要かどうかを伺いましたが、維持、管理の方から質問したいと思います。

事業概要によると、県からのあきた未来づくり交付金が2億円、一般財源が約4億3,000万円で約6億円以上です。財源として過疎債などの交付税措置のある起債やいろいろな国庫補助の活用を考えているようですが、建物を建てるための財源の内訳は盛り込まれていますが、維持、管理費はまったく計画されていません。

私は先日、若者センター、地域センターを改めて見学しました。活用次第では立派な交流施設となります。その施設管理費ですが、手元の資料によると若者センターは、平成25年度、改修工事費含んで470万円、平成26年度は370万円です。社会教育施設管理費ですが、これは廃校となった旧沖田面小学校、現在の地域センターですが、平成25年度は430万円、平成26年度は400万円です。また、生涯学習センター管理費ですが、平成25年度、工事費が306万円、合計で2,120万円。平成26年度工事費は、学習センターは3,456万円で、全体の合計は5,397万円です。ですから、生涯学習センターの純粋な管理費は1年間に1,800から2,000万円です。それで使用料収入をみると学童クラブは年間約50万円、学習センターは約30万円ですから、微々たる金額です。建物が建ってからの維持、管理が問題となります。

2040年には、村の人口が約1200人まで減少し、子どもや生産年齢人口の割合はドンドンが減少することが予測されています。今、村長は人口が70人減っ

ていっていますということですが、それは、現在は高齢者が亡くなっていていっているのです。それで、子ども達、赤ちゃん、それは年間、今年度は2名となるでしょう。来年、妊娠している方が何名かいらっしゃるそうですが、もうドンドン子どもの数は減っています。

時代の流れの中で、空き校舎や古民家を利用した地域おこしの取り組みが注目を浴びています。上小阿仁村産使用の杉のモデルハウスの活用や校舎の再生などの道も考えるべきではないでしょうか。先ほど耐震の関係で、地域センターは使用できないということでしたけれども、特に地域センターは、今現在、生きています。子ども達が使った宝の山が残っています。それで、夏場はプール、ある意味では相撲もあそこで開催されていました。2階へ行きますと、ピアノがあったり、或いは家庭科であった水道もチャンと生きています。それで、体育館もユニカールなど、そういう活動をしています。それをただ耐震だから無理という、それだけで再生する道を考えないでしょうか。私は、今、維持管理費を挙げましたけれども、ドンドン維持管理費が、年間3,000万円近くかかっています。多分この立派な未来づくり集合住宅、交流住宅が建つと、また維持管理費はどうなるのでしょうか。前途多難だと思っています。如何ですか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 大城戸議員の維持管理費のご心配、そのとおりだと思っております。私も少し建物の関係について担当させていただきましたので、例えば、旧沖田面小学校についても、今現在、使用するというふうなことで水道のバルブをひねると、校内のあちらこちらから水が噴出すというふうなことがあります。そして、電機系統についてもいろんな形で怖くて電機が通電できないというふうなことがありました。それから、屋根についても古くなると雨漏りがするというふうなことで、面積が大きい関係で大変な維持管理がかかるというふうなことが、建物の場合、当然考えられます。ですから、集落にあります公民館等についても、維持管理費等に多額の費用が、古くなってかかる場合は新築をしたほうが、いわゆる補助事業を活用し、起債事業を活用していくと、いわゆる通年の維持管理費で新築したものができてしまうというふうなことが、これまで多々ありましたので、今後、少なくとも、旧小沢田小学校についても、今後、考えられるのが水廻り、電機系統、そして屋根。

建物がもの凄く大きいものですから、その維持管理というのは大変な金額がかかるのがひとつ。それから先ほど説明させていただいたとおり、いわゆる耐震構造になっていないということになりますと、耐震構造のいわゆる新たな建設費がまたかかるというふうなことになりますので、そういうこと等を総合的に勘案しますと、将来の維持管理等も含めて、今のような木造での新築を少し考

えさせていただいたというふうな経緯がございます。

あと、新しく考えているものに、いわゆる木造の部分につきましては、皆さん、ご存知のとおり村は、9割が山林原野と、木材がたくさんありますので、その木材を何とか活用できないかというふうなことで、いわゆる夏冬の冷暖房についても、バイオマスを活用できないかというふうなことで、ペレット若しくはチップ、それと化石燃料との比較計算もこれからさせていただくと、最終的には総合的に判断をさせていただいて、その維持管理費が安く上がってなおかつ村の産業に繋がるものというふうなことは考えさせていただいております。

いずれ、若い人が村におらなくなるというのは最大のデメリットであります。若い人が1人、2人増えることによって子どもさんの数も増えていきます。それによって、村の産業経済に及ぼす影響というのは大変な効果があるというふうに考えておりますので、何とかしてその若い人方を呼び戻す、そういうふうな施策をとっていかないといけないというふうに考えております。

黙っていれば、先ほどお話したとおり、過去のデータで申し上げて申し訳ないのですけれども、黙っていれば平均で70人の方々がいなくなっているというふうな状況であります。これは自然増と社会増の増減であります。ですから、先ほど大城戸議員がお話されたとおり老人の方、それから生まれてくる方、出て行く人、入ってくる人というふうな差し引きでの増減での70名というふうなことになります。

ですから、これを何とかして50人、30人にしないと村はなくなってしまうのです。これを何とかしないといけないというふうなことで、黙っては何もならない。ですから、ここの部分をいろんな形で、議会に相談をしながら今後対応させていただきたいというふうに思っております。

いろんなご意見、ご提言をさらなるご提言を、よろしくお願いをしたいというふうに思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子議員に申し上げます。再々、4度目の発言になりますので、ポイントを絞って許可いたします。

○6番（大城戸ツヤ子） はい、分かりました。

若者を呼び込む、それは日本何処でもやっています。建物を建てたから呼び込めるものでもないです。上小阿仁に住んでいる人達が危機管理、過ごせるか、それが一番の手ではないでしょうか。

注意もありましたので、最後に申し上げますが、2015年12月9日、魁新聞によると、能代市の斎藤市長が施政報告で、未来づくりプログラムの県交付金活用を断念するとの記事がありました。理由は短い期間で用件を満たす事業決めるのは難しいという考えで、交付金を活用しなかったということです。

また、8日付けの魁新聞によると、県議会の一般質問の中で、ある県議会議

員が県の所有する公共施設での多くが更新時期を迎える。このまま存続させれば財政負担が大きくなるとの質問に、佐竹知事は、全ての公共施設を存続させて維持管理は困難、次の世代に付けを回さず、必要な施設の長寿命化や統廃合を進めるなどと答えています。私は、それぞれの首長の考え方にエールを送りたいと思っています。

また、村長のご家族は、秋田市にお住まいと聞いておりますが、後世に付けをまわさないように決断も大切だと思います。

以上です。ありがとうございました。

○議長（小林信） 一般質問の途中でありますが、ここで一旦中断し、午後 1 時 40 分から再開したいと思います。

暫時休憩いたします。

12 時 29 分 休憩